

稲作情報 第2号 【育苗・土づくり編】

- ◎ 用水の確保状況や品種に応じた育苗計画を立てましょう。
- ◎ コシヒカリは、5/15 植えを中心とした田植えをするため、4/26 を中心に播種を行いましょう。
- ◎ 収量・品質の高位安定化のため、初期茎数を確保できるように健苗を育てましょう。

1 震災対応

(1) 用水量が少ない場合

- ・ 地域内で話し合い、田植時期（代かきのための取水時期）の分散を図りましょう。
- ・ 余裕をもった田植計画を立て、田植日に合わせた育苗計画を立て、浸種を開始しましょう。
- ・ 田植作業が長期化する恐れがあるので、老化苗になりやすい厚まきは避けましょう。

(2) 用水確保が遅れる場合

- ・ 用水確保時期に合わせた田植時期を基に、育苗計画を立てましょう。
- ・ 通常の8割程度の収量を確保するためには、6月中旬頃までに早生・中生品種を田植する必要があります(6月中旬に田植した場合の成熟期は、てんたかくで9月中下旬、コシヒカリで9月下旬～10月上旬ですが、カントリーエレベーターで遅植えてんたかくは受入れできないので注意)。

(3) 用水が確保できない場合

- ・ ハトムギ等の畑作物や地力増進作物への転換も念頭に、出荷先や種子、機械等の確保が可能な確認しましょう。
- ・ ハトムギ等を作付ける場合は、ほ場が乾きやすいよう、額縁排水溝等を設置し、深く掘り下げた排水口と連結しておくとともに、耕起は播種作業の直前まで実施しないでおきましょう。
- ・ 作物を作付けしない場合は、定期的に草刈りを行い、次年度作付けできるようほ場を管理しましょう。

☆ 被災状況の確認

- ・ 機械作業の前に、液状化や土壌の隆起、地割れ等の有無を確認しましょう。
- ・ 異常があった場合は、状況がわかるメモや写真等を準備し、下記までご連絡ください。

農地・水路など・・・氷見市ふるさと整備課 0766-74-8091

農業機械、施設など・・・氷見市農林畜産課 0766-74-8086

2 健苗育成の目安

(1) 田植えまでの目安

品 種	種子消毒	浸 種	催 芽	播 種	搬出※	田植予定日	播種～田植
てんたかく	3/31	4/1	4/12	4/14	4/17	5/5	21日
中山間地域 コシヒカリ	4/7	4/8	4/18	4/20	4/23	5/10	20日
コシヒカリ	4/13	4/14	4/24	4/26	4/29	5/15	19日
	4/23	4/24	5/1	5/3	5/6	5/20	17日

※発芽苗の引取りは、搬出日が目安となります(5/15 田植えなら 4/28 頃に発芽苗引取り)。

(2) 種子消毒 ～水温厳守で確実に効果を～

- ・ テクリードCフロアブル 200 倍液に 24 時間浸漬し、消毒中は1～2回網袋を動かしましょう。
- ・ 水温が低いと種子消毒の効果が低減するので、必ず 12～13℃程度を保ちましょう。
- ・ 消毒後の残液は、河川等に流出しないよう適切に処理しましょう。

4月1日～5月31日は、春の農作業安全運動期間です。

裏面に続く

(3) 浸種 ～浸種1日目重要、積算温度120℃を目安に適切な管理を～

- ・浸種1日目(種子消毒含む)は、水温12～13℃、その後も水温は10～15℃を保ちましょう。
(昨年的高温により種子の休眠がいつもより深いと想定されるため、芽が揃いにこないよう水温には特に注意)
- ・酸素供給のため、2日に1回は水を入れ替え、また籾袋の上下も入れ替えましょう。
- ・遅い播種は浸種温度が上昇しやすいため、こまめに芽の状態を確認しましょう。



[最適な芽の長さ]

(4) 催芽 ～芽の長さをこまめにチェックを～

- ・育苗器を使う場合、袋に種籾をたくさん入れすぎず、上下段を入れ替え、袋を裏返すなどを行ってムラなく芽出しをしましょう。
- ・催芽温度は30℃、ハト胸～芽長2mm程度に揃えましょう。
- ・籾が手につかない程度まで種籾の水切りをしましょう。

(5) 播種 ～播種量を確認し、厚まき防止を～

乾籾 120g の目安

乾 籾	芽出し籾の容量	水切り後重量
120g	200cc	150g

- ・播種時には、ナエファインフロアブル 1,000 倍液を 0.5L/箱 又はダコレート水和剤 1,000 倍液を 1L/箱かん注しましょう。
- ・**稲大将箱粒剤**は、播種時(覆土前)に **イナゴ対策で施用** 散布量が 50g/箱になるよう調整しましょう。
(水稻育苗後にハウス内で野菜を作付けする場合は、田植え時にハウスの外で苗箱施用剤を施用)



[120g 播きの目安]

(6) 出芽・搬出

- ・出芽は30℃で約60時間(温度を確認!)。出芽長は1cmを目安とし、出し過ぎに注意しましょう。
- ・育苗ハウスの床土が均平であることを確認し、排水性が悪い場合はハウスのまわりに排水溝を掘りましょう。
- ・寒い日の育苗ハウスへの搬出は控えましょう。
- ・**搬出時はかん水**をして覆土を落ち着かせ、水不足によるヤケに注意しましょう。



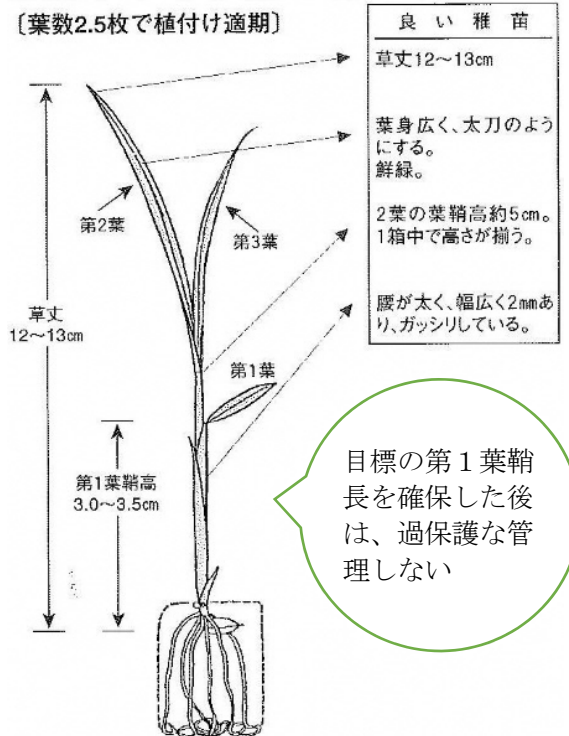
[搬出時のかん水]

日照がある場合は十分にかん水!

(7) 育苗期の管理

- ・白化苗を防ぐため、被覆資材を掛け、苗が黄色～黄緑色になったら外しましょう。
- ・かん水は基本的には朝に行い、覆土が乾いたら適宜かん水しましょう。
- ・昼間、ハウス内の温度は20～25℃を目安に管理し、25℃を超えるようなら換気しましょう。
- ・**第1葉鞘長が3cmを確保したら、霜や強風の心配がない限り夜間も換気を徹底しましょう。**
- ・遅い播種は育苗期間が高温になりやすく、病害発生や苗の徒長が助長されやすいため、ハウスの換気を徹底しましょう。

搬出直後から要注意!



3 ケイ酸質資材の散布

- ・氷見市内の土中有効態ケイ酸含量は年々低下し、稲の生育に必要な目標値を下回っています。
- ・秋に土づくり資材を施用できなかった場合は、春の耕起前に必ず施用しましょう。

ケイ酸質資材の散布量の目安

資 材 名	ケイ酸含有量	標準施用量
土力源	30%	100kg/10a
スーパーエスアイ加里	24%	100kg/10a

農作業安全のポイント

- ◇ 被災状況や危険個所を把握・共有し、トラクター等での転倒、転落事故を防ぎましょう。
- ◇ 余裕を持った作業計画を立て、複数人での作業を心がけましょう。
- ◇ 機械の使用前に、点検し、正しい使用方法を作業員に周知しましょう。